

# 結城市で地震を想定した防災訓練

## 城西病院 DMAT チームが参加

結城市の総合防災訓練救出救助訓練が 11 月 27 日、結城市鹿窪の鹿窪運動公園を会場に行われました。訓練には城西病院の DMAT（災害時派遣医療チーム）2 チームが参加しました。

訓練は、コロナ禍のために 3 年ぶりで行われました。市民による自主防災組織をはじめ、結城市、結城消防署、結城警察署、結城市消防団、自衛隊、鳶工業組合、救助犬協会など約 600 人が参加。鹿窪体育館で避難所開設資機材訓練、AED 訓練、防災グッズ作成訓練が行われた後、大地震発生を想定して訓練がスタートしました。

午前 9 時、関東地方で震度 6 強の地震があったとの想定で開始。この地震により、8 人乗りのマイクロバスと乗用車が正面衝突し、多くの負傷者が出たとして DMAT が出場しました。

消防隊員によって、乗用車から 2 人、バスから 8 人の負傷者が助け出され、救護所に駆け付けた DMAT 隊員によってトリアージが行われました。すぐにも緊急搬送が必要な重傷者が 1 人、DMAT によって血圧や脈拍、呼吸などを測定し、気管挿管した後、3 次救急病院に搬送しました。

過呼吸によって重症と認められた負傷者は、徐々に落ち着きを取り戻し、中等傷者とともに治療を受けました。その後、救助犬によってバスの下から 1 人の負傷者を発見。骨盤骨折とショックのためにすぐに搬送が必要と判断され、救急車で医療機関に搬送されました。訓練には大勢の市民が見学を訪れ、災害の状況に応じてきばきと行われる訓練に見入っていました。 2022 年 11 月 29 日

